

革新政策

——変化を起こし、変革を促し、幸福な国家へ

「刷新」という言葉は、台湾ではすでにかなり普遍的に用いられており、様々な方法を「刷新」するか、技術的な突破を図らなければ市場競争に直面できなくなっている。しかし、刷新は実際には完全に新しいものを発明する必要はなく、また何らかの奇抜な創意が求められるわけでもなく、多くの場合は既存の資源や力を新たに組み合わせ、消費者に価値を示し、経済成長を促すことができれば、刷新の目標を達成できたことになる。しかし、刷新を強調するだけで、刷新的な方法を重視せず、刷新の最終的な関心である如何にして消費者に価値を示すか、或いは台湾人の生活の困難を如何に解決するかを重視しなければ、最終的に刷新のために刷新することになり、「創造」「新しい」にとどまってしまう。

過去、台湾は科学技術の研究開発の向上に積極的に打ち込んだが、こうした研究開発への取り組みは科学技術関係の論文数や特許数の成績を強調するものであった。また、大学に対して大規模な助成を行ったが、その重点は世界のトップ100大学にのし上がることにおかれ、実際、こうした取り組みや目標は、刷新を促進する力を累積するのに寄与しただけで、我々が期待したような刷新によって消費者に価値をもたらしたり、生活上の困難を解決するといった刷新の目標とはかけ離れたものである。

さらに、台湾の刷新の競争力や国民の所得水準などに対する国際的な評価は、実際には概ね好評価であるが、これと対照的に、台湾人の幸福度や世界の住みやすい都市ランキング、労働時間等の国際的評価

は、相当に低くなっている。こうした相反する国際的評価は、過去の研究開発への投入や刷新の努力によって、幾許か刷新の競争力は高められたかもしれないが、刷新が台湾人に幸福や喜びをもたらしてくれることを期待するには、まだ相当の努力が必要であることを示している。

台湾の将来の発展が直面する重要な趨勢は、社会面では少子高齢化の深刻化があり、総合的な経済力向上にかかる労働力の必要性が問題となる。将来、より効果的に人材資源を活用し、より正確に方向を定め、マーケットの消費者に高付加価値をもたらさなければ、少子高齢化の趨勢の下で、一定の生活の質や水準を維持することはできなくなる。長期的な科学技術発展においては、台湾は過去数年間、デジタル電子やインターネット等の科学技術の普及によって、目覚ましい経済発展を成し遂げてきたが、こうした台湾の得意とする専門分野は徐々に頭打ちの状態を呈しており、今後、主要な市場チャンスは応用の整合にあり、新たな経済発展の波をもたらすに足る次世代の科学技術は、遺伝子、ナノ、潔浄技術であるかも知れない。しかし、かかるチャンスは確認できないため、こうした情勢に直面し、今後、台湾はデジタル電子の優勢を確保して、これを応用の統合へと広げ、長期的な優勢としなければならない。同時に、目標を持って次世代の科学技術モデルをもたらす刷新力を累積する誘因を提供する必要がある。動揺しているグローバル的な経済環境及び中国の市場吸収力の下、台湾は持っている刷新の力を借

り、さらに戦略的に国際市場や中国等のその他の国家の刷新的資源を活用し、台湾の経済発展の自主性を保つべく、台湾がグローバル経済においてより重要な役割を担えるように取り組まねばならない。

サービス業や製造業は、台湾経済の発展における重要な支柱であり、とりわけ製造業は経済成長に対する貢献が大きく、サービス業は多くの就業の機会を提供してきた。ゆえに、将来のサービス業が付加価値を高められないまま、より多くの就業の機会を提供する場合、これが所得分配に不利な影響を及ぼすことが想定される。製造業の主力は、中間材に偏っており、さらにこうした主力産業が創造する付加価値は高くなく、製造業が研究開発に取り組んでいるのは主に情報半導体産業で、特許取得や商品デザイン力には優れているが、国際的な産業チェーンにおいては、統合性、商品・サービスシステム及び重要な技術の主動力を欠いており、これらが主力製造業の付加価値創造力が低い重要な原因となっている。

刷新を真に着実なものとし、発揮させるのはやはり人材である。世界の数ある先進国や新興国家が知識を刷新の発展動力にしようと取り組んでいる中で、国際社会における人材争奪戦は日増しに熾烈になっている。専門的な人材の移動においては給与水準がやはり重要になるが、その専門性を発揮する空間があるか否かは、家庭生活環境や達成感をもたらしてくれるか等が相当に重要な要素となる。しかし、台湾は過去数年、大学数が過多にあり、技術教育も高等教育化された。大学受験における学

生の競争が低下する中で、大学教育のふるいにかけて選別するという機能は低下した。高等教育が輩出した学生は産業界の需要に合致することができず、就職する能力が欠如した状況下で、学生は進学するしかなく、修士や博士の学生がますます増えている。総体的な高等教育システムの研究開発資源は増加しているが、博士取得者は供給過多となっている。このように有り余る博士取得者の研究成果を客観的に計るには、学術論文の執筆数が主要な指標になるが、それぞれの発明や創意は実質的な応用や価値の創造による達成感を欠いたものとなっている。多すぎる研究人材に対し、限りある資源を分配する中で、研究成果から消費者の価値を創造する達成感を得られないのであれば、こうした人材発展の環境は、国際的な人材競争においては、当然ながら劣勢にある！

グローバルな科学技術競争という新たな趨勢、動揺する経済環境、中国の吸引力と向かい合うために、台湾は政策の刷新によって変化を促し、知識を基礎とし、刷新を変動力とする国家へと転換し、より深化した多元的な刷新力によって台湾の刷新力の優勢を発揮し、台湾人の生活面の問題を解決すべく、消費者に真の価値をもたらさなければならない。

我々は、台湾の将来は政策の刷新によって転換されるべきで、過去に累積した刷新力や刷新の競争力といった優勢を基礎に、変革をスタートし、より多くの人材や知的財産を基礎に、台湾が幸福な国となるべく努力すべきだと主張する。

政策の刷新においては、目標設定や誘因

メカニズムの設計上の変化から、過去の様々な「刷新のために刷新する」制度を打破する必要がある。台湾が刷新力にかかる優勢を具えられるよう導き、人々の生活上の不便さや困難さに基づいて産業競争の決定的な欠点を改善し解決に導く；ニッチ産業を主導できるよう、台湾のデジタル電子インターネット分野の産業と刷新力の優勢を出発点に、積極的に掘り下げ、応用を拡大する。次世代の潜在的な科学技術を勝ち取る力を配置し、大学の構造を良好なものとする誘因メカニズムを改革し、知識産業化のチャンネルをスムーズにするためにも、科学技術刷新の政策決定メカニズムを構築し、長期的な刷新の発展動力を優れたものにせねばならず、そうしてこそ台湾に長期的な刷新の発展的基礎をもたらすことができる！ **BT**